



「つたえる×つながる—美術と歴史の眼で見るまつど」展 戸定歴史館で7月11日から開催

松戸市では、7月11（土）から企画展「つたえる×つながる—美術と歴史の眼で見るまつど」を開催します。収蔵作品の中から、作品に取り上げられた地域（矢切・松戸・古ヶ崎など）がわかっている絵画・版画・写真を選んで紹介することにより、大正～昭和の松戸市内を美術作品からふりかえる展覧会です。

また、会場である戸定歴史館の協力を得て、明治～昭和期の松戸徳川家旧蔵写真を地域の紹介に活用し、美術作品と歴史資料のコラボレーションに挑戦します。自然環境・民俗・地域史などの複数の視点で作品を見るまつど発の美術にご注目ください。

- **会 期** 令和8年7月11日（土）～8月23日（日） 38日間
- **会 場** 戸定歴史館（松戸市松戸714-1）※駐車場あり
- **会館時間** 9時30分～17時（入館は16時30分まで）
※月曜休館（祝日の場合は開館し翌日休館。7月20日は開館し、翌21日休館）
- **観 覧 料** ※一般来場者への特別料金設定があります。（高大生料金据え置き）
一般350円（団体280円）、高校・大学生100円（団体80円）
※小中学生及び市内在住の70歳以上の方、身体障害者手帳、療育手帳または精神保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（手帳の交付を受けている方1人につき1人）は無料、団体は20名以上
- **出品点数** 約60点
- **展示構成** 第1章：田中寅三～絵画から見るまつど
第2章：奥山儀八郎～版画から見るまつど
特設コーナー：板倉鼎・須美子～「おかえりなさい！」のミニ展示
ナショナル・ギャラリー・シンガポール貸出作品紹介
スライド上映： 作品から見る×まつどタイムスリップ
第3章：板倉鼎～故郷まつど
第4章：まつどを象徴する風景～長田国夫、及川修次
※松戸徳川家旧蔵の古写真は、各章でご紹介します。



やさシティ、まつど。
matsudo

●展示説明

これまでも、受贈記念などで松戸市ゆかりの作家の展覧会を開催してきましたが、本展は、専門知識が無くても気軽に見ていただける、「絵に描いてある場所わかるかも?」、「うちの近所は作品になってないの?」の気持ちをきっかけに美術を身近に思っただけでなく、興味を持っていただくことを目指します。

【展示テーマ】

- 作品に取り上げられた地域・地名をきっかけに作品に親しむ
- 美術作品が過去の情報をつたえる側面を持っていることを意識させる
- 作家と鑑賞者が時間軸でつながるという発見＝美術を身近に感じてもらう

出品作品（一部）



《古ヶ崎風景 1》田中寅三 《水辺の風景(堂ノ口)》板倉鼎 《秋更け行く》板倉鼎

●関連事業【詳細調整中】

(1)スライドショー上映会&講演会 ※松戸宿坂川献灯まつりとの協力企画

(2)体験会：「松戸のかるた」を体験しよう! ※松戸宿坂川献灯まつりとのコラボ企画

- 主 催 松戸市教育委員会
- 後 援 JOBANアートライン協議会
- 助 成 一般財団法人自治総合センター、公益財団法人朝日新聞文化財団
- 協 力 京成電鉄株式会社、流鉄株式会社、北総鉄道株式会社（広告出稿予定）

【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部文化財保存活用課

☎047-382-5570 FAX047-384-8194

✉ mcbunkazai@city.matsudo.chiba.jp